

平成30年度小諸高校学校評価

【1】教育方針と重点目標

教育方針	民主的な社会の進展に貢献できる健全な人間の育成を目指す。
長期的目標	上記実現のため、生徒に「つけるべき力」は次の通りとする。 1 自分から目的を設定し、積極的に行動していく「主体性」 2 社会の一員としての自覚と他者の立場を尊重しよりよい人間関係を形成する「社会力」
重点目標	1 生徒指導の充実 2 学習活動の充実 3 特別活動の充実 4 開かれた学校づくり ※様々な場面において、いじめ・体罰のない、安心・安全な学校作りをさらに推進していく。

【2】今年度の重点活動

重点目標	具体的目標	実施内容	年間総括
1 生徒指導 の充実	①安心して学べる学校づくり	○いじめ暴力を許さない人権感覚の育成 ○相談室体制の充実	・いじめ対策では全校アンケートを実施し、その把握に努めた。こういった機会を利用して、いじめを許さない土壌作りをさらに進めたい。 ・係をはじめ養護教諭や担任を通じての相談体制が機能している。
	②交通ルール・マナーの向上	○交通安全教育の強化 ○交通安全全校集会の実施	・バイク、自転車の交通事故はわずかではあるが起きている。引き続き、年度当初からの安全意識を喚起したい。
	③集団規律の確立・維持	○服装・頭髪指導、時間厳守指導、清掃指導の徹底 ○携帯電話マナーの徹底 ○携帯・ネットの危険性を喚起するために全校生徒対象の講演会等の実施	・全校一斉の頭髪とピアスの検査を各学期ごとに行った。微妙な部分の生徒への指導は難しいが引き続き改善に向けた指導を進めたい。 ・携帯マナー向上ポスターの掲示。 ・1学年では4月に生徒向け、5月に保護者向けの携帯とSNSの危険性に関する講演会を実施。携帯の原則授業中教室持ち込み禁止を統一。生徒には意識はもたせられ、その後の指導のしやすさに繋がっていると思われる。 ・全校生徒対象にSNS関連の講演会を実施した。今後も継続的に行っていくことが重要だと思われる。
2 学習活動 の充実	①学力の定着	○家庭学習の習慣化のために学習時間の調査や週末課題など実施 ○外部模試の事前事後指導や、各種検定の活用	・考査範囲の配布により、計画的な学習の取組につながった。 ・学習時間の拡充、定着には課題が残った。 ・考査前1週間にわたり、家庭学習記録を実施。また教科毎復習課題という形で週末課題を実施。試験前の家庭学習の強化に繋がっていると思われる。 ・考査前クラブ単位での学習の効果は成績にも反映している。 ・模試関係では2年11月模試を全員受験にすることにより、3年次に向けての進路意識を高めることにつながった。 ・3年生の模試では受験者が前年度より増加し、進学に対する意識の向上が見られた。 ・各種検定試験では特に英検2級の合格者の増加が顕著であった。
	②進路指導の充実	○小諸ふれあい講座、職場体験などへの積極的参加の促進 ○基礎学力の一層の充実 ○現在の入試状況、社会情勢に関して、生徒・保護者に最新の情報をHPなどを利用して提供	・職場体験とその事前事後の取組を通して、地域の理解と職業観育成を具体的に進めることが出来た。 ・教科によって「振り返り」「反復学習」などを意識的に取り組ませるなど、基礎力の定着を図る指導を行い、徐々に成果につながりつつある。 ・夢ナビ(2年希望者)、大学出前講座、ふれあい講座Ⅱ等を通して、自らの進路について意識を深めることが出来た。 ・生徒、保護者、職員対象に県内大学研究会(松本大学、長野大学、清泉女学院大学)を実施。2021年度入試での変更点なども含めて入試に対する理解を深めることが出来た。

	③学習指導の研究と実践	○校内研修会の実施 ○研究授業の実施 ○校内公開授業週間を設定し授業見学による授業形態の研究	・図書館にタブレットパソコンを配備し、書籍とインターネットを併用しながらの探究的な学習が活発になった。 ・「公民」「音楽」「英語」で研究授業を実施し、授業形態の研究をすることができた。 ・公開授業週間を6月に設定し、授業見学を促した。教育実習生が来ていた教科では、職員間の授業見学が実施され授業形態の交流がなされた。
3 特別活動 の充実	①生徒会活動の充実	○生徒会活動を通じた人間形成、集団づくり ○生徒が主体的に活動できる場所の設定	文化祭などの行事においては各部署で自主的な取り組みができた。企画の段階では連携を密にすること、情報の共有が課題となった。早い段階から計画的・組織的に取り組みたい。日常の委員会活動では新たな取り組みを意欲的におこなう環境が設定できた。
	②クラブ活動の充実	○クラブ活動を通じた人間形成、集団づくり ○目標達成に向けての努力過程の重視	・生徒の自主的な活動の場を作ることができ、各部の目標達成に向けた取り組みの中で人間形成や集団づくりがおこなえた。
	③HR活動の充実	○HR活動を通じた人間形成、集団づくり ○LHRの充実した運営 ○ルーム長会による学年行事の企画運営	・3学年はLHRの時間を利用して、各種講演会を実施して、いろいろなことを知って学んで考える機会となり有意義なものとなった。 ・5月及び10月に「陽だまりトーク」企画を実施。代表生徒による企画運営を行い、トピックについて生徒たち自身による話し合いを企画し、学校への期待、携帯との付き合い方、これからの自分たちの在り方について話し合った。積極的な行動に移れる生徒が増えた。
4 開かれた 学校づくり	①開かれた学校づくり	○PTA活動の充実 ○学校評議員会の充実 ○三者協議会の充実 ○生徒・保護者アンケートの実施	・PTA 環境整備事業は天候が悪い中でしたが、保護者・生徒・同窓会の皆さまにご協力いただいた。活動をとおして交流も深まっている。 ・PTA アンケートをもとに次年度の活動をさらに活発にしたいと考えている。 ・三者協議会は生徒会執行部が中心となり「よりよい学校を作るには」をテーマ設定し、クラス評議員委員・PTA 役員・同窓会・学校評議員・学校職員が参加した分科会で話し合いをもち、全体会で意見交流することができた。
	②小諸高校からの情報発信	○ホームページの周知と充実 ○学年・学級通信、生徒指導通信、「小諸高校ニュース」の充実 ○きずなネットの周知と活用	・ホームページは、部活動の記録を更新するなど最新の学校の様子を掲載することができた。 ・1学年は、学年通信を4月と7月に発行。学校生活への適応と生活習慣の確立の見解を発信。学級通信は担任ごとに自由に発行。学校のことなど小まめに伝えた学級通信もあった。 ・きずなネットは、日課変更など大事なお知らせを発信できたが、学校全体だけではなく学年やクラスなどでも利用できることを職員にも周知していき活用を図りたい。
	③外部との連携	○市内各校・地域諸団体と連携を推進 ○外部向け公開授業の実施	・小諸商業高校や小諸市役所と合同で「学校づくり」についての講演会を開催し、小諸の将来像について連携を図ることができた。 ・今年度も引き続き浅間中学と小諸東中学で出前授業を行い中学校との連携を深めることができた。 ・学校開放日を10月に設定し中学生や地域に授業公開を実施している。また、PTA 総会や学校評議員会開催時も授業公開を実施し、日常の授業風景を随時公開することができた。